平成 20 年度　認知症地域支援体制構築等推進事業

実施報告（松阪市）

○事業経過

「認知症」への呼称変更、「認知症を知り地域をつくる 10 ヵ年」の全国キャンペーン開始、そして地域包括支援センターや地域密着型サービスの開設等々、一連の動きの中で、新たな地域支援の形が求められるようになった。しかし、認知症対策について市としての明確なビジョンを持ち得ぬまま、増加する認知症高齢者や介護家族への相談・支援に追われいるのではないかという反省のもと、平成 19 年度にキャラバン・メイト養成研修事業を行い、認知症対策の一歩を踏み出した。これを契機として本年度に当事業を受託することができた。単年度での事業受託の予定であったため、「事業終了後にも、取り組みがシステムとして機能し定着していくように道筋を作ること」を最大の課題として取り組んだ。

また、本年度は新たな保健福祉計画（介護保険事業計画）策定年である。平成 21 年度からの取り組みの中に「認知症施策」を重要課題のひとつとして明記することができた。本事業に取り組んで 1 年。粗く未熟な内容も多いが、幸いにも次年度へ継続できる見通しとなり、まとめの中で出てきた課題解決に向けて次年度へ繋げていきたい。

活動のあゆみ

月　日	内　　容	内　　容
4 月 14 日	事務局　事業打ち合わせ	コアメンバーの選定など
4 月 28 日	第 1 回プロジェクトチーム会議	基本姿勢と事業内容の確認
5 月 14 日	医師会との協議	「物忘れ相談会」「かかりつけ医」研修会について協力依頼
5 月 30 日	第 2 回プロジェクトチーム会議	包括毎に選定する小エリアの検討
6 月 23 日	第 3 回プロジェクトチーム会議	マップづくりをどのように進めていくか（メイトの意見を聞くことに）
7 月 18 日	第 1 回キャラバン・メイトの集い	サポーター講座実施経験者の講話 本事業の説明と協力依頼
7 月 29 日	三重県第 1 回推進会議に参加	本年度の取り組みについて報告
7 月 31 日	第 4 回プロジェクトチーム会議	マップづくりの骨子について協議
8 月 2 日	認知症講演会 （かかりつけ医向け研修会）	医師会との共催で開催 鳥取大学　浦上　克哉先生
8 月 3 日	認知症講演会（一般住民向け）	鳥取大学　浦上　克哉先生 認知症スクリーニング機器体験
8 月 26 日	第 2 回キャラバン・メイトの集い	地域資源マップづくりについてグループワーク

9月12日	第5回プロジェクトチーム会議	マップの概要について意見集約
9月14日	健康フェスティバルにて啓発	認知症スクリーニング機器の体験
10月20日	先進地視察（琴浦町）	認知症スクリーニング、予防教室の展開
10月21日	認知症講演会（飯高）	三重県立看護大　伊藤　薫先生
10月27日	包括連絡会にて方向性の確認	包括毎に小地域でアプローチを開始 薬剤師会との意見交換
10月30日	認知症講演会（三雲）	三重県立看護大　伊藤　薫先生
10月31日	認知症講演会（本庁管内）	三重県立看護大　伊藤　薫先生 認知症スクリーニング機器体験
11月7日	事務局　事業打ち合わせ	脳の健康チェック、脳のひらめき教室
11月12日	認知症講演会（嬉野）	三重県立看護大　伊藤　薫先生 認知症スクリーニング機器体験
11月18日	第6回プロジェクトチーム会議	マップ（共通版）づくり
11月19日	三重県第2回推進会議に参加	事業進捗状況について報告
12月22日	サポーター養成講座依頼	職域への広がりを求めて　第三銀行
12月25日	先進地視察（葛城市）	スリーＡを採用して認知症予防に取り組んでいる教室の視察
1月 7日～ 1月19日	脳の健康チェックとミニ講座 (5会場で実施)	スクリーニングと認知症予防ゲームの体験（対象者を教室へ誘う）
1月 9日	医師会協議（サポート医）	物忘れ相談会について
1月16日	事務局　事業打ち合わせ	マップづくり、 脳の健康チェックとひらめき教室
1月19日	第7回プロジェクトチーム会議	マップ（共通版）づくり
1月21日	認知症講演会（飯南）	三重県立看護大　伊藤　薫先生
1月22日～ 3月26日	認知症予防教室の開始（10回） スリーＡ方式の採用	サポーターへの研修（ＡＭ） 認知症予防教室（ＰＭ）
2月 9日	サポーター養成講座（職域）	松阪青年会議所
2月23日	第3回キャラバン・メイトの集い	サポーター養成講座のミニ報告会、地域資源マップについて（グループワーク）
2月27日	三重県第3回推進会議に参加	事業のまとめを報告（予定）
3 月 9 日 （予定）	第8回プロジェクトチーム会議	次年度に向けて

＜具体的な取り組みのまとめと課題＞

Ⅰ．医療との連携

１．「物忘れ相談会」の開催　　毎月開催（定員 3～4 人）

月　日	担当医療機関（科目）	担当包括	参加人数
8 月　7 日	南勢病院（精神科）	第一	2 名
9 月 18 日	済生会松阪総合病院（神経内科）	第二	3 名
10 月 16 日	南勢病院（精神科）	第三	3 名
11 月 21 日	松阪中央総合病院（神経内科）	第四	3 名
12 月 3 日	松阪厚生病院（精神科）	第五	3 名
1 月 23 日	済生会松阪総合病院（神経内科）	第一	4 名
2 月　4 日	松阪厚生病院（精神科）	第二	4 名
3 月 18 日	松阪中央総合病院（神経内科）	第四	

８月から開始した相談会も、回数を重ねるうちに問い合わせが増えてくるようになってきた。相談者については、自ら物忘れを心配して申し込む者もあれば、家族やケアマネジャーの勧めでやってくるケースなど、動機も認知症のレベルも様々である。専門医療機関への受診をためらう人は多いが、ここでは『相談会』と銘打ってあるため一歩が踏み出しやすいようだ。早期発見・治療への流れを確立するためにも大切な機能を果たしていくと考えられる。また予防段階の方や軽度な方に対しては予防教室へ誘うことができた。現段階での事業検証をサポート医や医師会と行ったが、「定期的に相談会を開いていくこと自体が大事。次年度も月１回のペースを確保していこう。」と協力をいただくことになった。担当医師の負担軽減のためにも、関わっていただける医師の拡大と確保が課題である。

また、導入した認知症スクリーニング機器で行う「脳の健康チェック」において、専門機関受診が必要と考えられるケースについても、この相談会へ繋ぐことで早く専門医のアドバイスを得ることができると考えられる。見守りや支援が必要なケースについては、住所地の地域包括支援センターが継続して関わるようにし、その後の情報について相談会担当医師やかかりつけ医にフィードバックし、連携を深めていけるよう努めたい。「かかりつけ医」と「専門医」の連携についても、医師会の協力を得て地道に推進していきたい。

２．認知症講演会の開催

①かかりつけ医向け研修会　（医師会と共催）

日　時　　平成 20 年 8 月 2 日(土)　19：30～21：00　　参加者 72 名

講　師　　鳥取大学医学部教授　　医学博士　　浦　上　克　哉　氏

演　題　「かかりつけ医に期待される認知症診療

～早期発見から治療に向けて～」

②一般住民向け講演会（サポーター養成講座を兼ねる）

日　時　　平成 20 年 8 月 3 日(日)　10：00～12：00　　参加者　179 名

講　師　　鳥取大学医学部教授　　医学博士　　浦　上　克　哉　氏

演　題　　「認知症ってなんだろう？　～理解を深め、地域でできることを探る～」

③その他講演会　　市内 5 会場にて開催　　（講師　県立看護大　伊藤　薫先生）

認知症サポーター養成講座を兼ねる

月　　日	会　　場	参加人数
10 月 21 日	飯高総合開発センター	40 名
10 月 30 日	ハートフルみくも保健福祉センター	64 名
10 月 31 日	松阪市産業振興センター	41 名
11 月 12 日	嬉野保健センター	46 名
1 月 21 日	飯南産業文化センター	119 名

かかりつけ医向けの研修会では、医師会・歯科医師会・薬剤師会より参加が得られ、今後の事業展開の足掛かりとなった。

一般向け講演会では、今後急増していくことが予測される認知症に対し、関心が高まってきている半面、予防や治療が不可能な病気ではないかという不安を多くの住民が抱えていることがよくわかった。誰もが罹りうる病気ではあっても、今は予防や治療が可能な時代になりつつあること、そのために早くから正しく理解し、予防の取り組みに参画していくことが大切であることを感じとってもらうことができた。アンケートにおいても、「希望を感じることができた。」「早くタッチパネルを買って、予防事業を進めてほしい。」という記述が多く寄せられた。また、「地域でできることを考えたい。」等の意見も多く見られ、「認知症サポーター養成講座」としての啓発の目的も果すことができた。

講演会やサポーター養成講座に関する問い合わせが以前に比べて多くなり、次年度は規模を大きくして講演会を開催し、住民の理解や地域での活動を引き出す手立てとしたい。

Ⅱ．認知症の人や家族を支える人材の育成・地域づくり

１．オレンジの会

認知症を正しく理解し、その啓発と共に、認知症予防教室等のサポーターとして市の事業の支援を行うことを目的に組織化された住民グループ

＜平成 19 年度＞の下記講座修了生で組織

介護予防いきいきサポーター養成講座（初級編）･･･介護予防全般　基礎講座

〃　　（中級編）･･･認知症を学ぶ講座

現在、市内の宅老所からの依頼で、脳活性化ゲームの指導（スリーA）を行っている。

また、平成 21 年 1 月から開催の認知症予防教室（脳のひらめき教室）のサポーターとして活動している。(写真はスリーA講師から研修を受けるオレンジ会メンバー)

２．認知症キャラバン･メイト支援と認知症サポーター養成講座

定期的に「メイトの集い」を開催し、情報交換やスキルアップの研修の機会を持つよう努めた。メイトを本事業の核となる人材と位置づけ、マップの骨子検討やアイディア提供を求めた。事業の進捗状況をフィードバックし、今後も地域づくりに積極的に関われるよう支援していきたい。また、養成した認知症サポーター一人ひとりに自覚を持ってもらえるよう登録制にすべきではないかとのアドバイスを得て、実人数の把握に努めているが、サポーターに対する具体的なアプローチを行うまでには至っていない。

職域においては、ようやく青年会議所や地元企業（銀行）へ県や社会福祉法人の協力を得て着手できた。今後、学校への広がりも含め、少しずつ輪を広げていきたい。

★平成 20 年度　認知症サポーター養成講座の展開

2 月 13 日集計分まで　33 回　　延サポーター数　1,243 人

（平成 17 年度より累計　1,477 人）

３．地域資源マップづくりと地域へのアプローチ

マップ作成を地域づくりのツールとして位置づけ、キャラバン・メイトを積極的に地域づくりに関わってもらうため集いを利用し、意見やアイディアを出し合ってもらった。小エリアでの取り組みにも協力を依頼している。

マップの体裁は、市全体の情報を掲載した共通版と、包括毎に設定したエリア限定版の 2 種類を作成することとした。共通版はA4 サイズ見開き　　ポケット付き。

5 つの包括の位置を示した市全体の概略図や、共通する公的な機関や認知症のことを相談できる医療機関等の情報などを掲載する。エリア限定版は、ポケットに差しこむ形で利用できるようにする。本年度は共通版を作成し、それを基に小地域での資源の掘り起こしを進める。出来上がった小地域のマップは常に手直ししていくとともに、地域内の他の小エリアへ順次着手していきたい。

Ⅲ．認知症予防への取り組み

１．スクリーニングの実施

脳の健康チェックとミニ講座（脳活性化ゲーム体験をセットに！）

タッチパネル式認知症スクリーニング機器（物忘れ相談プログラム）を 4 台購入。

1 月 7 日、1 月 8 日、1 月 13 日、1 月 14 日、1 月 15 日、1 月 19 日に「脳の健康チェック」を実施した。単にスクリーニングのみを行うのではなく、脳活性化のゲームを体験してもらうことで認知症予防教室が楽しいものであることを伝え、先入観や抵抗感を取り除き、教室へ誘導しやすいよう配慮した。

←タッチパネル式認知症スクリーニング機器

２．認知症予防教室（脳のひらめき教室）

1 月 22 日～3 月 26 日まで、週 1 回 10 回コースの教室を開催中。

スリーＡの脳活性化ゲームをツールとして導入。オレンジの会が教室サポーターとして関わっている。現在、5 回を終了したところであるが、参加者は一様に「ここへ来ると楽しい。」「うちでは笑うことが少ないが、ここでは心の底から笑ったり、話したりできる。」という感想を述べている。スタッフの評価においても、参加者の表情が豊かになったり、語彙が増えるなどの変化や、物忘れ等により自信を失っていた方が「自分は自分のままでいい。」と自己肯定できるようになってきている姿などが確認できた。今後も一人ひとりの変化を丁寧に見つめ、支援する教室でありたいと思う。

まとめ

「医療面での安心」と「地域力で支える安心」の構築を事業の大きな柱に掲げたものの、目標達成は容易ではない。しかし地区医師会の協力を得て、いくつかの取り組みができたことを大切にしていきたいと思う。導入した認知症スクリーニング機器を積極的に活用し、早期発見・早期治療への道筋が出来ていくよう努めるとともに、「認知症にならないまち」をめざして、認知症の発症前のグレーゾーンの人々へのアプローチも行っていきたい。

「地域力」構築の点では、5 つの地域包括支援センターが核となって地域のネットワークづくりが進むよう、マップづくりを手法としながら、多くの協力者を巻き込んでいけるよう努力したい。ステッカーなどの新たなツールの開発等も課題としてあげられよう。

ひとつひとつの取り組みが相互作用していく姿がおぼろげながら見えてきた。それらが定着し機能していくよう次年度も地道に実践を積み上げたい。